

水溶化腐植入り土壌改良資材 **ネバリン**®

水溶化腐植入り土壌改良資材「ネバリン®」は、腐植酸含量の高い木質泥炭を原料に日本肥糧(株)が独自の加工を行い、腐植の一部を水溶化させたもの（フモエキス）を混合した資材です。

水溶化した腐植は、①根張りの促進効果のアップ②微量要素の運搬といった働きがあり、これら2つが養分吸収の効率を改善することで、作物の養分吸収ストレスを緩和し健全な生育を助けます。さらに腐植の溶出は持続しますので、施用直後から効果が長期間持続します。

悪化した栽培環境に「ネバリン」を！

近年、「みどりの食料システム戦略」の一環で土壌診断が見直されていますが、診断を実施するとリン酸過剰や塩類過剰といった圃場が多くみられます。このような圃場では、微量要素が不溶化し、植物が養分を吸収しづらい環境となり、本来必要とされる養分が十分に吸収できません。

また、近年の夏の高温も、植物に

としては体力を消耗させる悪い環境のひとつで、根の活性を妨げてしまいます。

このような栽培環境では、収量や品質の低下、病害虫に対する抵抗力も低下します。

「ネバリン」の施用は、悪化した環境でも養分吸収や根張りの促進効果が期待でき、収量や品質の維持・向上につながります。

近年、水不足や高温、強風など作物が受けるストレスを軽減させる効果を持つ資材としてバイオスティミュラントが注目されていますが、「ネバリン」でも類似した効果の事例が確認されていますので一部紹介します。

事例①秋冬ねぎの欠株率の減少

夏の高温環境を越す秋冬ねぎでは、生育の停滞、欠株の発生が多々問題となります。このような高温環境下で「ネバリン」の施用試験を行ったところ、ネバリン区は対照区に比べ根張りの改善効果による欠株の減少と収量の向上が確認できました（図1）。



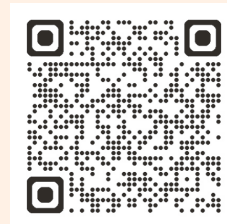
粒状タイプ
(2～5mm)



事例②登熟期水稻の葉面温度低下

水稻栽培で登熟期の葉面温度を調査すると、ネバリン区は対照区に比べ2～3℃低下していたことがわかりました（写真1）。また、ネバリン区は対照区に比べ収量・品質が優れ、同時に根張りの改善も確認できました。

日本肥糧では、さまざまな作物で現地試験を行っていますので、ぜひ、ホームページ（二次元コード）からご確認ください。



土壌改良資材
「ネバリン」の
施用事例

●お問い合わせ先

日本肥糧(株) 開発普及本部
TEL.0274-42-1249

【全農 耕種資材部 肥料課 肥料技術対策室】

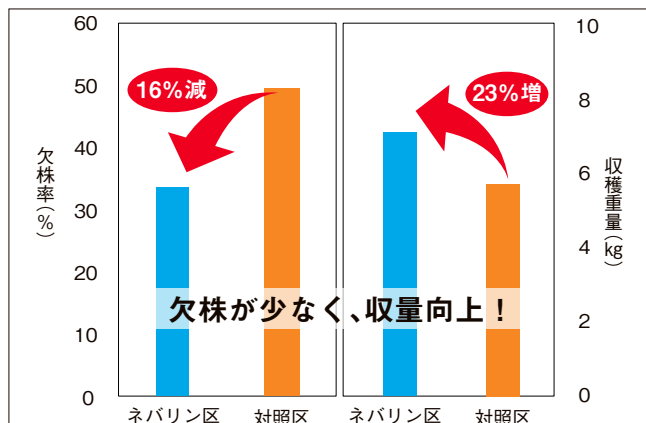


図1 秋冬ねぎ向け展示圃における欠株率と収穫重量調査結果
試験場所：千葉県香取市
資材施用量：ネバリン区のみ「ネバリン」100kg/10aを全面施用
定植日：2021年5月30日
調査日：2021年12月27日
調査：畝に沿って1m幅を掘り取り、収穫重量は掘り取った1mの合計

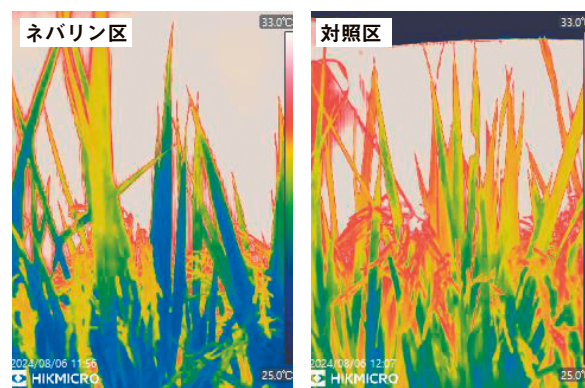


写真1 水稻向け展示圃における葉面温度の測定結果
試験場所：茨城県桜川市
資材施用量：ネバリン区のみ「ネバリン」約50kg/10aを全面施用
定植日：2024年5月10日
調査日：2024年8月6日
調査：サーモグラフィーカメラで撮影